

「新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う道の対応について（道案）」に対する主な意見

1 有識者・専門家の意見

1-①

平時と感染拡大時の対策をあらかじめ検討することによって、重篤化する感染を抑制でき、混乱を避けることができる。

5類移行後も、発熱者が今までどおり、治療を受ける体制を取ることが大切。

今後も新しい情報を分かりやすく伝えていただきたい。入院や入院調整の運用も各地域で異なるので、関係者の話し合いを進めていただきたい。

1-②

感染対策は今までよりも緩くていいという誤った印象を持たれると困る。今後、正しい情報提供がますます重要。

1-③

どこの医療機関でも受診できる医療提供体制を一刻も早く整えていただくことが大切。

患者負担の軽減措置の一部継続、患者からの相談窓口機能の維持など、段階的な見直しを進めていくことは必要。

新型コロナの療養期間などが、季節性インフルエンザと同程度になるということを理解していただくことも必要。

1-④

今後の対応について、特に異論はない。

感染を疑う患者が速やかに安心して受診できるよう、新たな診療機関を随時公表するなど、わかりやすく「見える化」してほしい。

高齢者施設等の対応について、看護師や専門家派遣、検査体制の維持など、引き続き、きめ細かな対応をお願いします。

1-⑤

今後に向けては、過去の知見では最善の対応でも、将来も同様の対応が良いとは限らない、という視点も含めて検討をお願いします。

コロナ禍、物価高といった複合的な要因により、厳しい状況にある生活困窮者への支援について、今後も留意いただきたい。

1-⑥

コロナの経済的な後遺症に対し、相談体制の充実や、きめ細かな支援をお願いします。

感染した場合の対応やワクチン接種等も含めて、何がどう変わるのか、道民や事業者にしっかり周知いただくようお願いする。

1-⑦

地方は個人病院が少ないので、公的病院の役割は非常に大きい。ピーク時の検証が必要。

ワクチン接種の体制も地方と都市の格差があり、地方は負担が大きかった。今後、地方センターも検討してほしい。

1-⑧

道の対策・対応に異論はない。

保護者からの質問対応に苦慮している学校があることから、より丁寧な説明をお願いします。

1-⑨

道の対策・対応に異論はない。

5類移行後の外来医療機関の拡大や入院調整について、市民生活に影響が出ないように十分な体制を構築してほしい。

1-⑩

今後の方向性については概ね妥当、というのが全体としての受け止め。病床確保、医療体制の整備が重要な課題。移行をスムーズに進めるためにも、柔軟性を持って、体制を構築できる仕組みの検討が必要。

普段の生活を取り戻すことを実感できる形で作っていかねばならない。マスクの着脱など、より柔軟に個人個人が判断できるような広報をやってほしい。

経済や生活困窮者の課題の深刻化についても、きめ細かに状況を見ながら検討を進めていただきたい。

1-⑪

入院調整など医療機関の間での連携は、診療報酬制度と併せて地域ごとの協議を進めていただきたい。

移行計画について、対応医療機関を増やすに当たっては、助けが必要なきときにサポートする体制や、実践している人からノウハウや経験談を聞ける場を設けていくことが必要。

1-⑫

変異株が出た際の初動体制の確保をお願いしたい。

情報収集、調査研究が非常に重要なので、コロナで得たノウハウを次に活かしていただきたい。

1-⑬

道案に異論なし。

症状軽快の際の病院や施設での受け入れについて、理解が得られるよう啓発を行っていただきたい。

2 市町村・関係団体の意見

2-①

5月8日以降、重症患者等が円滑に入院することができるよう、医療機関間の調整が軌道に乗るまでの間、保健所が入院調整に関与して対応していただきたい。

2-②

5類へと移行され、感染症対策については、個人や事業者任せられることとなりますが、今後においても市町村との連携のもと、道民及び事業者等へ感染予防に係る情報提供をお願いしたい。

2-③

発熱した場合どうすれば良いのかなど、分かりやすい情報を伝えていただきたい。